

かながわ都市緑化フェアが今年は十月に厚木市で開催され、一週間で二十三万八千人の人手でにぎわった。

行政は市民に緑化の大

しかし必要性に全く首を傾げざるを得ない開発が目につく。丹沢湖の水が余っているのに宮ヶ瀬ダムを建設し、相模大堰(せき)を造るので、寒川取水堰が遊休化する。

画は、神奈川の豊かな自然に取り返しのでない打撃を与えることになり。特に第2東名と厚木森野道路は、丹沢に大規模な開発の手を加えること

を受けて、日本でも昨年十二月に環境基本法が閣議決定され、循環を基調とする経済社会システムの実現、自然と人間との共生、環境保全行動を掲

告知・公開を加速させなければならぬ。残念なことは、公共事業が一部のゼネコンや土建会社だけに利益が集中し、特に必要のない工事をして、その結果として自然環境が破壊されることだ。

## 環境行政を本格的に

厚木市会議員 高田 浩



宮ヶ瀬ダムと相模大堰の事業費は両方で一兆円を超え。

から、日本に四百羽程度しか確認されていない希少種のオオタカなどがす

これを推進するのに、その現場として地方自治体の役割は極めて具体的

おのり、見習うべき点が多い。

また新規プロジェクトとして第2東名、相模縦

九二年にブラジルで地球サミットがあった。こ

一人ひとりが公共事業を注意深く見ていく必要が

釈迦の「樹恩」という自然の恩恵を意味する言葉が二千五百年の時を超え、現代に重く響く。

ある。開発は人間の営みの上で、ある程度必要ではある。

県は開発計画が、めじろ

行政は、市民に情報の

(厚木市、31歳)